



■最近の話題

「樹園地及び畑での簡易な整備による取組」研修会を開催しました

青森県では、今年度、黒石市の青森県産業技術センター農林総合研究所において、水田転換畑を傾斜ほ場（図1）とした場合の湿害対策効果の検証を行いました。また、東北町のながいも畑においては、湿害対策に有効な深暗渠を排水路に自然排水することが困難な場合でも導入可能となるよう、浸透式とポンプ式の排水処理（図2）について検証を行いました。いずれも、湿害対策を目的とした地表水や地下水の排水改良技術の検証です。

これらの取組成果や平成30年度に策定した、中山間地域におけるスピードプレーヤーの横転事故を未然に防止するための指針である「りんご園の安全に配慮した基盤整備計指針」（詳細は前号参照）について、県内の農業関係者を対象に、「樹園地及び畑での簡易な整備による取組」と題して、津軽（黒石市：11/8）と県南（東北町：11/5）の2会場で研修会を開催しました。

研修会では、これまで検証した事業効果等について担当者から説明があったほか、実際に簡易な基盤整備を実施した現地確認も併せて行いました。参加者からは、施工機械の種類や工事費用、暗渠排水の効果等について質問があり、関心の高さが伺えました。

今後は、畑作物に合わせた排水改良技術の手引きを作成し、りんご園の設計指針と同様に、県内の農業者、関係機関に配布するなど、簡易な基盤整備の啓発・普及に取り組むこととしています。

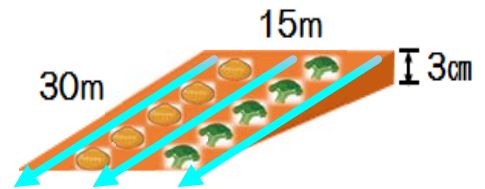


図1_傾斜ほ場のイメージ

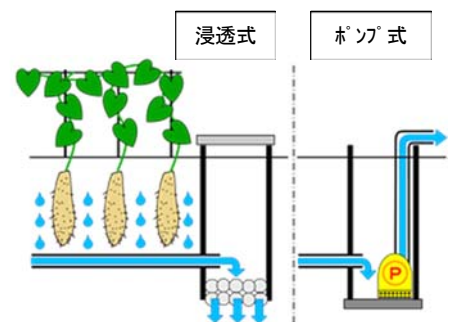
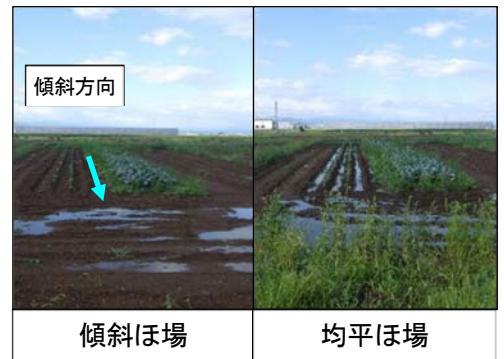


図2_排水処理のイメージ



■「環境公共」事例紹介

下北の農・林・水を体験するバスツアー(下北の環境公共推進プロジェクト)

1 概要

令和元年10月27日(日)、地域の子供と保護者38名を対象とした環境公共推進プロジェクト「下北の農・林・水を体験するバスツアー」をむつ市及び東通村で行いました。本イベントは、「環境公共」の取組や水循環の大切さについて理解を深めてもらうため、農林水産関連施設の見学、農業体験、環境公共学習等を通じて、おいしい農林水産物を地域の人たちがどのように守っているのかを紹介するものです。

2 内容

バスツアーは、最初にむつ市川内町のサケふ化場の見学に向かいました。参加者の皆さんにとっては、普段なかなか入ることのない施設の見学ということもあり、生け簀を泳ぐサケの様子に興味津々でした。

サケふ化場見学の後は、東通村の能舞の館「たや」に移動し、ほ場整備事業で造成した農地で栽培されたそばでそば打ち体験をし、そのまま昼食となりました。慣れないそば生地の感触に四苦八苦しながらも、完成した手打ちそばに舌鼓を打っていました。

昼食の後は、環境公共の学習を挟んで東通村のいちご農家、濱田さんのいちごハウスで収穫体験をしました。下北地域は夏も比較的涼しい気候なので、夏秋いちごの栽培に向いています。生産者には若手農業者も多く、販売額も1億円に迫るなど、下北地域で最も勢いのある特産物の一つとなっています。

その後、東通村森林組合加工センターに移動し、森林の役割を学習したほか、間伐材を利用したウッドボードづくりを体験しました。製材された木材の滑らかな手触りに驚きながらも、親子で楽しく製作していました。

3 イベントを終えて

参加した子供達は、今回のイベントを通して、健全な水循環の大切さを理解したと思います。保護者からは「子供に貴重な体験をさせることができ、良い機会となった。また開催してほしい。」といった意見が多数寄せられました。



サケふ化場の見学



そば打ち体験



イチゴハウスでの収穫体験